

各府省ヒアリングについての意見

1. 男女別のニーズの把握と施策への反映に関すること

- 男女別のデータの集計を行っていない、また、男女別のデータを把握しているが、施策に反映されていないなど、高齢社会における男女共同参画の取組が不十分。
 - ・ 男女共同参画の視点が現行の高齢社会対策大綱に明記されているにもかかわらず、政策の立案や実行に十分に反映されていないことは問題。
 - ・ 男女でどのようにニーズや利用状況が異なるのか等、男女別に実態を把握し、それを施策の運営に反映させることが重要。
 - ・ データを取るだけでなく、男女の老後の生活様式の違いなどに着目した運用が大切で、そのためには男女共同参画の視点を各省が持つことが必要。
- 結果として施策の恩恵を受けるのが男性に偏ってしまっている施策がある。その背景について分析し、施策の仕組みの見直しや女性のニーズの掘り起こし等を行うべき（たとえば、経済産業省の企業等 OB 人材マッチング事業、シルバー人材センター事業、エイジレスライフ表章等）。

2. 関係主体や施策との連携に関すること

- 様々な施策が行われているが、男女の視点から柱になるようなものを提示し、バラバラにならないように施策間の連携を図って進めていくことが必要。
- 高齢者施策の推進の多くは地方自治体が担っていることや、高齢者自身が地域活動に参加すると共に地域住民による高齢者への支援を目指していくことを考えると、地方自治体や関係主体等との連携の視点が重要。

3. これからの高齢者施策について男女共同参画の観点等から重視されること

(1) 高齢期における男女それぞれの位置づけや課題の分析と共有化

- 高齢社会の男性の位置づけ、女性の位置づけを議論するべき。男性の介護をした後女性が一人残りその介護は誰がやるのかといった問題や、老々介護の実態の深刻さ等についての実態把握・分析を行い、提言をしてもいいのではないか。
- 「男性は孤立、女性は自立困難」といった男女共同参画の観点から見た問題について、各省間で共有されて施策に生かされることが必要。

(2) 男女共同参画の観点から見た高齢者の自立支援をめぐる課題

- 高齢者の能力活用については、労働者としての視点ばかりではなく、NPO やボランティア等の非経済的な活動も含めて考えることが必要。
 - ・ 社会に貢献するのは当たり前だと言う意識を作り直し、職業生活とボランティアが一緒になっていれば、定年になっても困ることもない。
 - ・ 高齢者の視点に立てば、無償でも周囲に頼りにされ、「生きがい」を感じながら生きていくことが大切。
 - ・ 特に女性については、家庭や地域等における無償活動を社会的に評価し、高齢女性の能力活用を積極的に奨励する視点が重要。
- 高齢期における就業状況が男女で偏っていることや女性介護労働者の賃金が男性よりも低いこと等をみると、現役時代の労働市場における男女差別がそのまま高齢期をめぐる就業市場で再生産されてしまっている。これらの実態や背景状況を把握分析していくことが必要。

(3) 人口動態を踏まえた高齢者施策の重要性

- 高齢者のみ世帯や一人暮らし世帯が当たり前になる前提で、施策の在り方を考えるべき。
- 地域差をどのように考えるか。これから重要なのは、大都市における高齢化の問題ではないか。

(4) その他

- 生活者としての自立という視点も重要である。高齢者の生活自立を支えるコンピューター機器等の開発（例えば、パネルタッチ式）も必要ではないか。